

抽出成分利用研究会 第3回樹木抽出成分討論会開催報告

2020年11月21日、第3回樹木抽出成分討論会をオンラインシステム ZOOM を用いて開催いたしました。この討論会は、抽出成分利用研究会の活性化に向けて、一昨年にはじまった討論会です。当初、この討論会は、2020年5月に中国四国地区生物系三学会（動物学会・植物学会・生態学会）との合同大会として香川大学農学部で現地開催する予定でした。しかし、コロナウイルス感染予防のため、本年度の中国四国地区生物系三学会の香川大学での開催は中止となってしまい、来年度以降に延期することになりました。その後、第3回樹木抽出成分討論会の実行委員会でも話し合いが行われ、中国四国地区生物系三学会と同様に、今年度の開催を中止しようとする意見もあったのですが、初のオンラインという形式で開催することにしました。

午前中は4件の口頭発表があり、参加者から多くの質問が交わされました。木材学会に所属されていない先生方からの発表もあり、他学会との交流の場となりました。午後からは、香川大学名誉教授の片山健至先生から「リグナン・ネオリグナンの生合成と熱帯産森林バイオマス抽出物の生物活性～国際交流に基づく研究を振り返る～」と題して基調講演をいただきました。これまで抽出成分利用研究会でご活躍された片山先生の最終講演であり、多くの参加者の方から、片山先生のご功績とご功勞に対し感謝の言葉が寄せられました。

初のオンライン開催のため、今回は口頭発表のみでの開催とさせていただきましたが、38名の方にご参加していただきました。今後も、抽出成分について研究されている木材学会内外の研究者の交流できる場として、本討論会を開催していきたく考えています。

（抽出成分利用研究会代表幹事 香川大学農学部 鈴木利貞）